

# 1878年パリ万国博覧会と日本の教育部門への参加

樋 口 いずみ

## はじめに

19世紀に欧米で相次いで開催された万国博覧会（以下、万博）では、産業革命の成果を発表す機会、国威発揚の機会などとして参加各国に利用されてきた。展示部門の一つでもあった教育分野についても同様のことが言える。

急速な近代化を目指す日本も1873年のウィーン万博以降、万博への参加に際して教育を重要な項目の一つとして位置づけ、この機会を大いに利用してきたものと思われる。ゆえに、万博の教育部門に関する日本の取り組みを明らかにすることは、今日に続く日本の教育の形成過程を知るための一助となると考えられる。また、万博は様々な形で異なる文化の交流が行われた場でもあり、教育分野においてもこうした交流が行われていたという事実は興味深い。

これまで、19世紀後半に開催された万博に関して日本の教育部門への参加に着目した考察が石附実や平田諭治など<sup>(1)</sup>によってなされているが、その全貌をとらえる上ではさらに広く、他の万博のケースについても目を向ける必要がある。

そこで、本稿では、万博を介して行われた教育分野での交流に関する考察の一環として、1878年パリ万博を取り上げることとする。この万博については、財政的事情から他の主要万博に比べて詳細な報告書が作成されなかったことから、考察の対象となる機会が極めて少ないが、当時の万博報告書や公文書等のほかに欧米側に残る文献の記述を用いてこの万博への日本の教育部門の出品の様子について紹介するとともに、それをめぐる欧米側の評価の一端を浮き彫りにしてみたい。

## 1. 1878年パリ万国博覧会と日本の参加

1878年パリ万博は1878年5月1日から11月10日にかけてトロカデロとシャンマルスの二つの会場で開催された。日本はこの万博にどのように関わっていたのか。日本の博覧会事務局の報告書や関係者の日記等の記述を中心にたどり、その舞台背景を明らかにしたい。

### 1-1. 日本の参加の経緯と関係者

日本に1878年パリ万博への参加の要請があったのは1876年のことである。1876年6月25日佛國代理公使から外務卿寺島宗則宛に開催を告げる文書が送られ、同年8月17日には太政官布告

として、1878 年パリ万博への参加と出品が伝えられた。また、1877 年 1 月には「佛蘭西共和國大統領」から「日本皇帝陛下」に親書が送られている<sup>(2)</sup>。

西南戦争によって政情が混乱していた日本にとってこの時期の万博への参加は大変厳しいものであった。しかし、それまでの万博参加よりも派遣人員を縮小し、詳細な報告書を作成しない<sup>(3)</sup> など経費削減策をとりつつ、大久保利通を中心に参加の計画は押し進められた。

日本は万博に参加するにあたって、事務総裁以下、総計 23 名を任命した。博覧会事務総裁は大久保利通、博覧会事務副総裁は松方正義であった<sup>(4)</sup>。その内、副総裁の松方正義、事務官の前田正名、石原豊貫、久保弘道、御用取扱の平山成信、谷謹一郎、諏訪秀三郎、成島謙吉、兼松直稠、三田浩、大橋靖、河原徳立の 12 名が日本からパリへ派遣された。残りの 11 名は佛國公使館在勤の者 4 名とフランスに在国の者 7 名であった。なお、フランス現地に彼等が到着してからは、外国に対しての事務の関係上、松方正義は総裁を名乗り、また、鮫島尚信が総裁心得に、前田正名が事務官長に任命されることになる。また、後に詳述するが、これらの博覧会事務局関係者の他に、文部省から九鬼隆一等も博覧会御用掛として派遣されている<sup>(5)</sup>。

このうちの一部を除く関係者は、50 名を超える日本代表団一行として、1878 年 2 月 11 日、Tanaïs 号で横浜港を出帆<sup>(6)</sup>、香港で乗船を変え、3 月 27 日にマルセイユに到着<sup>(7)</sup>し、その後 3 月 29 日にはパリに到着<sup>(8)</sup>している。

日本政府は在巴里府事務局として、パリ市内（15 avenue Matignon）の一家を借り受け、1 階を事務所、2 階と 3 階の部屋を副総裁以下、諸委員の私室とし、滞在した。博覧会開場後は、シャンドマルスの日本の展示場の片隅に詰め所を設け、事務官長と出品科委員は半日ごとに会場に行き、出品人の監督や観客に物品の解説をするなどをし、また副総裁も時々会場を巡回するなどの活動を行った。

## 1-2. 日本の展示会場

万国博覧会はセヌ河を挟んでシャンドマルスとトロカデロの二つの会場で行なわれた。

シャンドマルスには各国の物品が陳列される本館が設けられ、東側はフランスの展示場、西側は各国の展示場となっていた。そして、東西の両端はそれぞれの農業館・機械館となっていた。また、各国展示場の表には各国風の門戸が建てられ、その門に面した通りは“rue des Nations”と呼ばれ、この万博の見どころの一つとなっていた。

トロカデロには、中央に高さ 50 メートルの塔を持つ建物が建てられ、6 千人を収容することができる円形の中央ホールでは会議や式典などが行われた。さらに左右の回廊は展示場となっており、右はヨーロッパ芸術の回顧展示場、左は東洋美術展示場となっていた。

また、トロカデロの斜面からシャンドマルスの会場に至る間には、国々が、その国風の建築物や庭園を建造した。

日本の出品会場もこれら三つの会場に設けられていた。シャンドマルスの日本の展示場は、本館のほぼ中央に位置し、右脇は中国、左脇はイタリアの展示場という場所にあった。また、前述のとおり

“rue des Nations” に面して各国風の門を建てることになっていたが、日本もけやきでできた「國風」の門を建造している。また、門の左側の壁には、人口、都府、海港、及び幅員などと共に日本全国の略図が描かれ、右側の壁には皇居、官省、学校、病院、公園などを示した東京の略図が描かれた。このシャンドマルスの日本展示場では、第二大区「教育及ヒ其用具方法等」から第九大区「園藝」まで、博覧会の展示区分<sup>〔9〕</sup>に沿って日本の博覧会事務局が中心となって準備した日本の物品が展示された。文部省による第二大区の教育部門の展示もここで行われている。

トロカデロの回廊左側の東洋美術展示場にも日本の区分が設けられた。この東洋美術展示場はインド、中国、日本の古器物の展示場になっていたが、その三室のうち、二室に日本のものが展示された。ただし、その二室のうちの一室はギメ・コレクション等の外国人によるコレクションの展示であり、日本政府が関わった出品物は一室のみであった。

トロカデロからシャンドマルスにいたる通りの左側には千坪あまりの円形の土地が日本に割り当てられ、「國風」の農家が建造された。この農家は三井物産株式会社によるもので、日本から持ち込んだ木材で日本から派遣された職工によって建造された茶室が設けられた。ここでは団扇や陶磁器が飾られ、茶を点てるなどの実演が行われていたことが博覧会事務局の報告書や欧米側に残された報道図版、週刊新聞等の記述に確認することができる。また、農家の建物の左には陶製の噴水器が設置され、その側に水田もつくられた。そして、ところどころに花壇を作り、日本から持ち込んだ草木、穀物、野菜などを植え、木製の壇には盆栽が並べられた。また、日本からの出品でもある鶏や家鴨も放たれた。敷地の周囲は竹垣で囲われ、そこには朝顔やインゲン豆がめぐらされ、日本の第九大区「園藝」の実演展示となっていた。

### 1-3. 文部省からの派遣

前述のとおり、この万博参加に際して、日本の博覧会事務局関係者の他に、文部省から九鬼隆一と手島精一、中川元が渡仏している。

文部省大書記官であった九鬼隆一<sup>〔10〕</sup>は、この万博に出品監督と教育調査を目的として派遣され<sup>〔11〕</sup>、教育部門の審査官も務めている<sup>〔12〕</sup>。数々の万博に参加している手島精一<sup>〔13〕</sup>はこの万博では九鬼隆一の随行者として派遣された。また、彼らに随行者の中川元の本務は「師範制度取調」であったが、九鬼隆一の輔手と通訳を務めた<sup>〔14〕</sup>。

このような文部省からの派遣団は、この万博開催の2年前にあたる1876年のフィラデルフィア万博にもすでにみられる。田中不二麻呂等の総勢5名<sup>〔15〕</sup>が派遣され、この派遣団には手島精一も参加した。彼らは博覧会会場での教育出品の準備、見学者への説明、各国の教育事情の調査、教育の国際会議への参加やアメリカ各地とカナダの教育視察などを行っている<sup>〔16〕</sup>。

1878年パリ万博への派遣でも同様なことが行われたと思われる。彼らの行動を残された記録を基にまとめると、次の三点の活動を行ったと考えられる。

第一に教育部門の展示会場での解説である。万博が開場すると、先述の通り、日本の展示会場で

は博覧会事務局員が訪れた人々の日本の展示に関する質問に答えていたが、教育部門においても同様に、文部省から派遣された彼らが会場に出向いていたようである。この様子については、九鬼隆一による報告として掲載された『教育雑誌 第八十六号』（1878 年）の「佛國大學博士大學助教大學區名譽監督アンリヨ氏ノ教育新聞紙抄譯」に記述されている。それによると、「文部省ノ委員一週ニ四日此部ニ出張シテ諸人ノ尋問ニ答辯」していたようであり、「此部ノ出品ヲ蒐集シ且ツ之ヲ整頓セル九鬼隆一君其他東京教育博物館副長手島精一君及ヒ文部省屬官中川元君ノ三氏ニ對シ予輩公然萬謝スル所アリ」と記されている。

第二に欧州教育調査が挙げられる。先に述べたように、そもそも九鬼隆一のフランス派遣に関しては、パリ万博の出品監督の他に、教育調査を行うことが求められていた。よって、彼らは学校や博物館などを視察したと推測される。その時の様子について、のちに九鬼隆一は次のようなエピソードを回想している。

洋行中佛蘭西で君を引き連れて高等師範學校を見舞つた時に校長は大兵の大男で劍闘が好きだと云ふから生が仕合つて見たが彼は突いて懸るので不慣れの生は少しく負け色であつた、すると、それを見て居つた君は生の敵打ちと思つたか、校長と立合いなり歐洲風の突く拳で以て全く日本風に、した、か叩き付けたから彼校長も大弱はりに弱つて、果ては大笑ひとなつたが（後略）

（『中川元先生記念録』『親切懇到を以て終始す』）

また、こうした視察はフランス国内に留まるものではなかったようである。手島精一の記録<sup>(17)</sup>によれば、少なくとも二度、フランス国外へ視察に向かっている。それによれば、5月1日にパリ万博が開場した後、まだ会期中ではあったが、8月2日に「教育品購求、學事巡視<sup>(18)</sup>」のため、パリを發つてロンドンに、19日には「英國「リバプール」府博物館巡視」のためにリバプールに赴いた。また、9月16日にも「歐洲大陸學事巡視、及、教育品購求」のため、パリからブラッセルに向かっている。ブラッセルでは「ブルス」氏の紹介で、「同府學校を巡視」し、ベルリン、フランクフルト、ストラスブルグを経由してパリへ戻っている。その視察の詳細は明らかではないが、パリ万博への出品準備のみならず、各国へ積極的に教育事情の調査に出かけていたことがわかる。

また、1878 年のパリ万博の会期中には著作権保護や衛生など多岐にわたる国際会議が開かれたが、これらの一つとして教育分野に関する会議も行われ、そこに九鬼隆一が出席したようである。この教育会議は 1851 年のロンドン万博以降、万国博覧会の開催に際して行われてきたものであり<sup>(19)</sup>、『教育雑誌』の第七十八号と第七十九号（ともに 1878 年）には九鬼隆一による報告として「巴里府萬國博覽會教育會議問題」と題した記事が掲載されている。この教育会議への参加も第三の活動として挙げられよう。

以上のように、1878 年パリ万博に際しては、博覧会事務局とは別に、文部省から三名が派遣され、

会場での展示解説、教育事情の調査、教育会議への参加などを行ったのである。

## 2. 日本の教育部門への出品をめぐる

では、日本の教育部門への出品とはどのようなものであったのか。そして、その根底には日本側のどのような思いがあったのか。ここでは、博覧会事務局の報告書や文部省の年報等をもとに、教育部門の出品の概要とそれをめぐる動きをたどり、その実態を明らかにすると同時にその根底にある参加意図にも迫ってみたい。

### 2-1. 出品物の概要

万博の歴史において教育部門が独立した部門として設けられたのは 1873 年ウィーン万博のことであった。この万博は明治政府としての初めての参加であったが、既にこの時点から教育部門への出品を行い、その後、1876 年のフィラデルフィア万博など、19 世紀後半の万博の教育部門へ出品を続けた。

本稿で考察の対象としている 1878 年のパリ万博においても、同様に出品が行われている。博覧会事務局の報告書によれば、「二大區」の「教育及ヒ其用具方法等」の部門に「一、五一二個」が出品されている。そしてこれらの品々はシャンドマルスに設けられた日本の展示場に展示された。ただし、九鬼隆一の報告として『教育雑誌 第八十六號』に掲載された「佛國大學博士大學助教大學區名譽監督アンリヨ氏ノ教育新聞紙抄譯」や万博に際して発行された週刊新聞である“L'EXPOSITION DE PARIS”などの記事によると、日本の教育に関する出品物は教育展示場に展示するのではなく、各国展示場にそれぞれ設けられていた機械館に展示されていたようである。

さらにこの展示場に展示された物について、日本博覧会事務局によって仏文で発行された出品解説である“LE JAPON À L' EXPOSITION UNIVERSELLE DE 1878”では、この日本による教育部門への出品はすべて文部省による出品であると説明している。

『文部省第五年報』によると、まず万博への参加が決まると文部省は「本省并所轄學校教育博物館及府縣其他諸會社各人民ノ編輯書製造器具等教育上緊要ナル物品ヲ採擇シテ之カ目次ヲ編纂シ其部類ヲ區分」した。その区分は四部構成であり、第一部には「教育制度學事報告學校攝影及模形學校用器具」を、第二部には「教科書字書教育家參考書教育雜誌新聞紙」を、第三部には「教育ニ関スル玩具幼穉園器具指物教授掛圖地圖地球儀理學器械博物學標本醫學器械」を、第四部には「生徒試驗答書圖畫及製作品」を出品したようである。

では、こうした教育部門への出品はどういう意図をもって行われていたのだろうか。博覧会事務局による報告書によると「凡ソ一國ノ開不開ト人民ノ智不智トヲ知ルハ只教育ノ道如何ニヲ見ルニ在ルノミ<sup>(20)</sup>」という認識に基づく出品であった。そして、こうした認識は博覧会事務局だけではなく、文部省側でも共有されていたようである。『文部省第六年報』の記述では、「我邦固有ノ實力ヲ了會セシムルハ我カ國權ヲ振張スルノ良法ト謂フ可シ」とした上で次のように述べている。

（前略）彼ニ萬國博覧會ノ舉アルヲ時トシ我カ諸物品ヲ□シ其用法理由等ヲ譯述解説シテ彼ノ億萬公衆ノ展覽ニ供シテ其喝采ヲ博取スルハ亦此良法中ノ一要件ト謂フ可キナリ

つまり、万博の教育部門を「一國ノ開不開ト人民ノ智不智トヲ知ル」場と捉え、日本の教育に関する物品を万博に展示し、その用法を広く示すことで対外的なアピールを行い、国威を示そうとしていたと読み取れると言えるだろう。

## 2-2. 教育に関する出版物の発行

万博への教育部門への出品をめぐっては、単に教育に関する出品物を展示しただけではなく、日本の教育に関する出版物の発行も行われた。万博に際しては、日本の教育について記述した出版物がいくつかが発行されているが、ここでは、日本が万博への教育部門の参加に何を求めていたのかを探るために、日本が公式に発行したものとして、日本の博覧会事務局と文部省による二つの出版物<sup>(21)</sup> について紹介したい。

一つは“LE JAPON À L' EXPOSITION UNIVERSELLE DE 1878”の第2巻である。博覧会事務局による報告書には次のような記述がある。

（前略）外ニ出品解説アリ又之レヲ反譯シテ一冊トシ史略ト合ハセテ二冊二冊ヲ合セテ一部トシ惣數二千五百部ヲ印刷ス佛國事務局ニハ勿論各國事務官及ヒ我事務局委員ノ知友又ハ請求ノ者等ヘハ一部及至二三部ヲ贈付セリ或ハ會場等ニテ販賣ヲ許ルシ勉メテ播布ノ事ヲ謀リタリ

この「出品解説」とは、おそらく博覧会事務局（LA COMMISSION IMPÉRIAL DU JAPON）の名でパリにて印刷、刊行された仏文の2冊組みの冊子“LE JAPON À L' EXPOSITION UNIVERSELLE DE 1878”の第2巻であると思われる。これには、この万博の出品区分に沿った順番で、その分野の国内事情等について解説されおり、教育については「ÉDUCATION ET ENSEIGNEMENT」という項目で十三頁にわたって紹介している。その内容は、そのほとんどが日本の教育の概略史で占められるが、その前に次のような記述がある。

Les rapports annuels de ce ministère, ainsi qu'un livre intitulé Nippon Kioiku Shiraku, faisant partie des objets exposé, donnent tous les détails intéressants sur ce sujet: nous les laisserons donc parler eux-même, et nous nous contenterons de faire l'historique abrégé de l'enseignement public au Japon et d'en faire connaître l'état actuel.

つまり、出品物の中でも特に‘Les rapports annuels de ce ministère’ と ‘Nippon Kioiku Shiraku’<sup>(22)</sup> を日本の公教育の概略史と現在の状態を知ることのできるものとして紹介しており、これらがすなわ

ち日本の教育出品に関して強調してアピールしたいという点を表す出品物であったと考えられるだろう。

もう一つの出版物は「CATALOGUE DES OBJETS ENVOYÉS A L'EXPOSITION UNIVERSELLE DE PARIS (MAI 1878)」である。これは文部省 (LE Ministère de l'Instruction Publique DU JAPON) によってパリで出版された冊子で、表紙には日本語で「日本文部省出品目録」と記されている。全五十二頁の冊子になっており、先に紹介した出版物と同様、すべて仏文で書かれている。その内容は、教育に関する出品物を前述した四区分に分け、九鬼隆一の署名による序文に記されているとおり、それぞれの項目ごとにその概要を解説し、出品目録を掲載している。この冊子の記述内容は具体的な出品物を紹介することを中心に記述されており、一見、先述の出版物とはその目的が異なるように思われるが、切り口は異なっても、どちらも日本の教育の現状や歴史を伝えることで日本の教育の様子を対外的に示そうとする姿勢が読み取れるという点では同様の意図で出版されたものであると推察される。

これら二つの出版物は、博覧会事務局、文部省とそれぞれ違う立場からの出版であるため、それらを必ずしも同一視することには慎重にならないといけな。しかしながら、どちらも日本の教育に関する公式な出版物であったそれらの出版をめぐっては日本の教育の様子を示すことで対外的にその水準の高さを誇示したいという共通の意図があったと言えるのではないか。

### 3. 日本の教育部門への評価

日本の教育部門は見た者にどのような感想を与えたのだろうか。ここでは、残されている欧米側の報道記事の記録や政府の報告書などの一部から、その一端を紹介してみたい。

日本の博覧会事務局の報告書では、日本の展示に対する評価の報告の中で、特に教育に関する展示に関して言及し、次のように報告している。

幼年教育小学校ノ器具（文部省出品）及ヒ京都府女紅場ノ出品ハ審査ノ評最モ好シ殊ニ文部省ノ出品ニハ獨リ審査官ノミナラス具眼ノ人ハ皆驚テ我國教育ノ斯克上進セシヲ稱セサルモノ無シ文部省ハ名譽賞状女紅場ハ准銀賞状ヲ得タリ

実際に文部省による教育の出品物に対しては多数の出品物が名誉賞状、准金賞状などを受賞しており、日本の博覧会事務局としては、教育部門の展示が高い評価を受けたという認識にあったと考えられる。

そして、日本の教育部門の展示場に関して言及した欧米側の報道にも評価の高さを示す記述がみられる。例えば、九鬼隆一の報告という形で『教育雑誌』に掲載された教育新聞の抄訳には次のような記述がみられる。

此博覧會ノ教育部ヲ廻覽スル人ニシテ日本ノ教育出品ヲ見ント欲スル者ハ少シク諸國教育部ノ線

路ヲ離レザルコ□ヲ得ザレバ煩勞ノ如ク思ハレ□決シテ然ラザルベク必ズ通覽ノ後ハ其勞ヲ忘レテ出ヅル事アラン是レ蓋シ極遠ナル東國諸學校ノ用具及ビ學則等ヲ知ルノミナラズ日本ニ於テ近年教育進歩ノ甚ダ迅速ナルヲ見ルベシ且つ日本ハ實ニ昨日マデハ鎖港セシ國ナリシガ今始メテ開港スレバ既ニ此ノ如キ進歩ヲ現ハシテ歐洲諸國ト并立セルノミナラズ歐洲各國ニ於テモ日本ノ要用ナル適例ニ模倣スベキモノ甚ダ多ケレバナリ

（『教育雑誌 第八十六號』「佛國大學博士大學助教大學區名譽監督アンリヨ氏ノ教育新聞紙抄譯」）

この記述は、日本の教育部門への高い評価を裏付けるだけではなく、報告という形で日本語に訳して『教育雑誌』に掲載されたものであり、国内にもその評価を伝えようとする意識が感じられるという点でも興味深い。

また、こうした記述は、日本側が自ら選別した記事にのみにみられるものではない。万博の際に発行された週刊新聞 “L' EXPOSITION DE PARIS “でも、次のように述べ、評価している。

Dans la galerie des machines, le Japon n'avant pas de machines, est installé l'exposition du ministère de l'instruction publique, qui est très-intéressante. Alphabets, cahier d'élèves, collections d'instruments scientifiques divers, modèles, plans, cartes, photographies, rien n'y manque.

また、このような評価は報道記事だけではなく、政府の公式な報告書にもみられる。例えば、アメリカ合衆国の博覧会事務局の報告書では、日本の教育部門について九頁にわたって報告しているが、その中で次のように記述している。

One of the most striking of the educational exhibits both as to variety and excellence was that of Japan. Nor can the interest directed to it by visitors be explained merely by the surprise at witnessing such excellence from a quarter where little was looked for of modern methods and broad conceptions of education. But the fact is that a very clear picture was made by this exhibit, from which it is fair to infer that the educational status and the progressive ideas of Japan were well represented.

（“REPORTS OF THE UNITED STATES COMMISSIONERS TO THE PARIS UNIVERSAL EXPOSITION 1878”）

このように、日本の教育部門の展示については、見た者に高く評価され、欧米各国の報道や報告書などにもその評価が記録された。しかし、一方で、日本の博覧会事務局による報告書は、こうした高い評価を伝えると同時に、次のように指摘している。



本會我出品中最モ世人ノ驚歎セシモノハ文部省出品ノ教育品ナリ爲メニ我國ノ地位　ヲシテ幾等  
カ上進セシメ外交上ノ信用ニ關係シテ名譽ノ外無形ノ間ニ□得セシモノ決シテ小ナラス然レトモ  
今我國ノ教育品ハ齊文部省ノ出品セシ普通小學校用ノ器具品ノミニシテ海陸軍ノ學校工部司法兩  
省附屬ノ諸學校等ニ至リテハ更ニ一個ノ出品無ク決シテ完全セシモノニ非ラス外國ノ出品ト比較  
スル□ハ大に徑庭シテ同日ニ論ス可カラサルモノアリ

また、今回の万博への教育部門への参加を振り返って、『文部省第六年報』では、次のようにも報告している。

今回巴里府萬國博覧會ニ我カ教育上ノ諸物品ヲ排列シタルハ實ニ寡少ノ數ニシテ其　元價ノ金  
額ノ如キモ僅ニ二千圓ニ過キス此寡少ノ物品ヲ以テ夫ノ歐米各國ノ巨萬ノ資□ヲ捐テ、蒐集陳列  
シタル夥多ノ物品ニ對シテ□角ノ勢ヲ爲サシトスルハ素ヨリ己ニ至難ノ事タリ

つまり、1878 年パリ万博に際しての日本の教育部門の展示は、日本の教育の水準の高さをある程度アピールするものとなり、急速な近代化を欧米諸国に印象付けることになったが、日本にとっては、まだ今後課題も残すものでもあったのである。

## おわりに

1867 年のパリ万博に幕府として参加し、明治政府としても 1873 年のウィーン万博、1876 年のフィラデルフィア万博など出品を重ねてきた日本は、万博の部門の一つであった教育部門にも 1873 年ウィーン万博に教育部門が開設されて以来、出品を行ってきた。そして、本稿で取り上げた 1878 年パリ万博においても同様に出品している。

先述のとおり、この万博においては、教育部門出品のために、博覧会事務局員以外に特別に文部省から九鬼隆一、手島精一、中川元の 3 名が派遣され、教育部門に関わる出品自体もすべて文部省によって行われた。

文部省から派遣された 3 名は、博覧会会場での出品解説や会期中に開かれた教育に関する国際会議へ出席し、また欧州の教育調査のために積極的に視察も行った。また、万博の教育部門を「一國ノ開不開ト人民ノ智不智トヲ知ル」場と捉え、教育に関する物品を展示するのみならず、日本の教育の水準を示すために日本の教育の歴史や現状を記した冊子の出版を行った。

これらの一連の活動に類似する動きは、この万博の 2 年前に開催されたフィラデルフィア万博においてもすでに行われている。そうした意味では、これらは特に新しい動きではなく、むしろその規模の点では小さい動きであったとも思われる。ただ、その規模の小ささの要因はそもそもこの万博への参加自体が、国内の財政事情から参加規模を縮小する傾向にあったという事情によるものであろう。つまり、1878 年パリ万博の教育部門への参加は、教育部門への積極的な参加という、以前の万博か

らからみられる一連の流れの中にあるものであり、日本の近代化を示すものとして教育水準の高さを示し、同時に他国の教育事情を調査するという意図があったと考えられる。教育のみならず各分野で欧米に倣った近代化が推し進められていた国内事情を鑑みれば、それは当然の動きでもあるだろう。

そして、こうした意図の下に行われた日本の教育部門の展示に対して、その展示を見る者となった欧米側は、その展示の感想を報道記事や報告書を通じて高く評価した。1878 年パリ万博の日本の出品に関する報道記事や報告書をたどると、当時、1867 年のパリ万博をきっかけにおこっていたジャポニズムの流れを受けて、工芸品等に関して高く評価する記事が多いが、一方で出品物が欧米向けに改悪され、日本の伝統的な良さが失われていると指摘する声も散見されるのもこの万博の特徴である。しかしながら、教育部門に関する記述のみを追っていくと、本稿で扱った記事が日本の教育部門に関する記事のわずかな一角に過ぎないとはいえ、欧米側の記述には教育の出品に関してかなり高い評価がなされているという点は興味深い事実である。つまり日本側の教育部門への参加意図は、欧米側の評価をみる限りにおいては、この 1878 年パリ万博への出品を通じてある一定の達成をみたと考えられるのではないだろうか。

本稿においては、万博という場を介して行われた教育分野での交流の実態を明らかにするための一環として 1878 年パリ万博に着目し、その手始めとして 1878 年パリ万博の教育部門の参加全般に関して概観することに力点をおいて紹介、考察してきた。今後は個々の事項に対して、より深い調査と考察が求められる。今後の課題としたい。

- 注(1) 石附実「万国博覧会と教育—ウィーン博への参加から—」『西洋教育の発見』1985 年 福村出版、石附実「日本教育の世界への登場—フィラデルフィア博覧会と教育—」『世界と出会う日本の教育』平成 4 年 教育開発研究所、平田論治「1884 年ロンドン万国衛生博覧会における日本の教育の紹介」『筑波大学教育学系論集 第 27 巻』2003 年、平田論治「1884-5 年ニューリンズ万国博覧会における日本の教育の紹介」『筑波教育学研究 第 2 号』2004 年などがある。
- (2) 「巴里萬國覽會參同依頼ノ件」、「太政官布告 第百拾壹號（明治九年八月十七日）」、「佛蘭西共和國大統領日本皇帝陛下ニ啓ス」『日本外交文書』所収
- (3) 「佛國博覧會ニ関スル報告書編輯ハ多項ニ渉ラサルヲ要ス」『太政類典』第二編百七十三巻
- (4) 「巴里萬國博覧會事務總裁等任令通知ノ件」『日本外交文書』所収
- (5) 『佛蘭西巴里府萬國大博覧會報告書』第二篇日本部
- (6) 手島精一自筆メモ『手島先生傳』、『松方正義関係文書第 1 巻』P 381
- (7) 手島精一自筆メモ『手島精一先生傳』手島工業教育資金団編 1929 年
- (8) 手島精一自筆メモ『手島精一先生傳』手島工業教育資金団編 1929 年
- (9) この万国博覧会の展示区分は分野ごとに 9 部門に分かれていたが、『佛蘭西巴里府萬國大博覧會報告書』によれば、日本は第一大区「美術」以外の 8 部門に出品したとされる。ただし第一大区への出品の有無については、欧米側に残された欧文目録等に出品の記述が確認できる。
- (10) 後に帝国博物館の創設に尽力し、初代帝国博物館総長となった。
- (11) 佛國博覧會事務局『佛蘭西巴里府萬國大博覧會報告書』第二篇日本部 1880 年
- (12) 佛國博覧會事務局『佛蘭西巴里府萬國大博覧會報告書』第二篇日本部 1880 年
- (13) 万博や内国勸業は博覧会の審査員などを数多く経験し、1877 年に教育博物館長補、1881 年に東京教育博物館長となり、啓蒙教育に貢献したほか、東京職工学校の創設に尽力するなど工業教育にも貢献した。

- (14) 手島精一「30 年前の追憶」『中川元先生記念録』
- (15) 他に、畠山義成、阿倍泰蔵、手島精一、出浦力雄が派遣された。
- (16) 石附実「日本教育の世界への登場－フィラデルフィア博覧会と教育」『世界と出会う日本の教育』平成 4 年 教育開発研究所
- (17) 手島精一自筆メモ『手島精一先生傳』手島工業教育資金団編 1929 年
- (18) 手島精一自筆メモ『手島精一先生傳』手島工業教育資金団編 1929 年
- (19) 'International congresses of education' "A cyclopedia of education" vol3 1912
- (20) 佛國博覧會事務局『佛蘭西巴里府萬國大博覧會報告書』第二篇日本部 1880 年
- (21) 『佛蘭西巴里府萬國大博覧會報告書 第二編日本部』に「出品目録モ亦惣數二千部ヲ印刷シテ諸人ニ播布シ販賣セシ」との記述があり、教育に関する公式な出版物として、この他に欧文の『出品目録』が出版されていた可能性がある。筆者は未確認であるが、これは "Catalogue de la section japonaise" (la Commission imperial) である可能性が高い。
- (22) 『日本教育史略』はフィラデルフィア万博時に刊行された "An outline history of Japanese education" を 1877 年に邦訳したものであり、1878 年のパリ万博のにも出品され「准金賞状」を受賞した。

<参考文献>（本文・注に記したものは除く）

- ・ 佛國博覧會事務局『明治十一年佛國博覧會出品目録』1880 年
- ・ 博覧會俱樂部『海外博覧會本邦參同史料』第二輯 1928 年
- ・ "Exposition universelle internationale de 1878 Rapports du Jury" vol. 1-3 paris 1880
- ・ 中川浩・「法蘭西師範制度取調」顛末』『仏蘭西学研究』第 8 号 日本仏学史学会 1978 年